

せることは、諸君ならびに学部にとっても有意義であろう。現代における学生の特徴の一つは、自己表現のまずさであろう。練習もしていないのであるから当然である。「話す」ということのルールを知ることは重要ではないだろうか。今来、エンカウンター・グループなる活動がさかんになっている背景には、こういった自己表現の場の喪失が大きく関係しているのではなからうか？ダベリコンパとは、その字のごとく駄弁るのである。再び北氏のを引用すれば、「駄弁るという言葉はむだ話をするというくらいの意味だが、ここで人生の問題などをあれこれ論議しあうのである。」今、快調コンパ（愉快地騒ぐコンパ）でさえ、白けるのに、ダベリコンパなんてできるものかという意見を持つだろう。しかし、僕は、ダカラやるのだと言いたい。意気がるわけでは、決してない。僕は特に自己表出が下手であるからだろうが、僕は人と話してみたくてしょうがないのである。諸君らはいつ心をうちつけて話すつもりだろうか？結婚して、カーチャン（あるいはトーチャン）と話

すまで待つつもりだろうか？

事務的な話に移ると、このダベリコンパを今秋に実行したいと思っている。場所は広島城で。時は当然夜。夜の広島城というのはなかなか素敵である。こういった発想が「一風変わった」という評価を生むのだろう。別に立入禁止の札もなかったからやってもいいだろうと思っている。もう一つの方は、つまりこういうことである。広高の先輩は、若い人ですでに50代である。今、記録に残さないと消えてしまうであろう。第一、それらを無視しても自分らと同世代の別の青春を見るというのは楽しいではないか？

以上の2点を実行に移したく嘆願するのである。多少とも、ほんの少しでもいいから関心のある人は僕にコンタクトをつけてほしい。エサでつる分ではないが、コーヒーぐらい馳走するよ。（但し後輩に限る）

鬱勃たるパトスの会仮代表 藤野常信
（だいたいプレAの人間行動実験準備室にたむろしている。）

自由投稿

無 題

情報行動科学コース3年 白石秀樹

昨日、僕がウトウトとしていると、さわやかな秋風に乗って、どこからともなく話し声が聞えてきた。聞くともなしに聞いていると、どうやら何か議論をしている様子である。

A：じゃあ、君は今の世の中をどう見てるんだ。日本を見てみろ。有事だ、元号法制化などとしてだいに右傾化してる。このままいけば、戦前のような天皇中心の軍国主義国家になってしまうかもしれない、さらに世界に目を転ずれば、どうだ。共産主義国家と資本主義国家が対立し、そのために核軍拡競争は止まる所を知らず、ついには人類を数回殺して余りある核を持つに至ってしまった。狂気の沙汰だ。もし、今一度、大戦が起これば日本どころか、世界中めっちゃめっちゃだ。人類は滅亡だ、なんとかしなきゃいけないと思わないのか、君は。

B：滅亡するものは滅亡させておけばいいさ。一

体君は、一人で何をそう憤慨してるんだ。昔の中国の書に「淮南子」というのがあるそうだ。その中に次のように書かれている。

「私という人間が生まれるまでに、この天地は無限の時間を経過している。私が死んだ後も、また無限の時間が流れてゆくことだろう。してみれば私という人間は、無限の天地と無限の時間の流れに浮かぶ一点にすぎない。このわずかな数十年の命しかない一個の人間が、広大極まりない天下の乱れる事を憂えるのは、あたかも黄河の水の流れが少なくなった事を悲しみ、その涙で黄河の水を増そうとするのに似てはしないだろうか。三日の命しかない^{かげろう}蜉蝣が、三千年の寿命をもつ亀のために長命法を心配してやったとすれば、きっと物笑いの種になるに違いない。してみれば、天下の乱れなどは憂えず、ひたすらに我が身の治まることを楽しみとする者であってこそ、はじめて永遠の道を語る資格があるといえよう。」とね。君一

人が、騒いだ所でどうにもなるもんじゃないよ。
A：な、なにを言うのか。それじゃ君は、安閑と昼寝でもして、この人類の危機を見過せというのか。君は一人で何ができるかというが、一人が二人、二人が三人と力を合わせてゆけば、やがては大山をも動かす事ができるというものだ。問題は人数の多寡ではなく、何事かを為そうとする意気と熱情だ。

B：ほう、大層な元気だな。だがな、物にはそれぞれ流れというものがある。まあ、いわば天命だ。運命、宿命といってもよい。僕に言わせれば人類が滅亡するのは一つの流れで、必然だな。人智人力ではいかんともし難い。

A：必然だって？その根拠はなんだい。

B：人間が不合理だからさ。いいかい。人間は、いわば自然を母として生まれてきた。自然があったからこそ存在できたのさ。それがどうだ。人間にはなくてもいい知恵なぞという馬鹿げたものがあるために自然から遊離し、逆に環境を自分流に変革している。核爆弾を作り、農薬を作り、分解できない製造物を作りだし、自然の秩序を乱し、叛旗をひるがえしている。母体である自然からはみだした者が滅び去るのは、道理であり必然だ。

さらに、人間自身について言えばこれは、世界的な脳生理学者だった時実利彦氏が言っているが、人間という生物は、集団でないと生きてゆけないが、その反面、自分がよりよく、よりうまく生きてゆくために自分以外の者の存在を認められない面を持っているきわめて不合理的な動物であるとね。そこに人間の悲劇がある。人間は、自分だけをよりうまく、よく生かすために、しかも集団の中で、権勢を求め富を求め争ってきた。実際、歴史を動かしてきたのは、人間の闘争本能でその引き金となる種々の欲望さ。一体、人類の歴史のなかで闘争、戦争がなかった時があったらどうか。人類の歴史は闘争の歴史だよ。それがなぜ、今まで滅亡せずに生きながらえてきたかと言えば、技術、もっとはっきり言うと、兵器が未発達だったためにそうならなかったのだ。ところが、今じゃおめでたい事に、中性子爆弾からレーザー光線までそろってる。今度戦争になったら、それこそパーだ。みすみす滅亡する事がわかっていたら、戦争はやらんだらうという人がいるが、

冗談じゃない。人間が、それほど利口で合理的なら、最初から人類を何回も殺して余りある核を作りはしないし、第一、人間同士殺し合う事なぞやりはしない。人間てのは始末におえない生き物だよ。滅びるのは、自業自得ってもんさ。

A：それは君の思想だろう。確かに人類の過去の歴史は抗争の歴史であった。だから、今後も何らかの抗争があるとする確率の方がずっと高いだろうし、人類の破滅をもたらす大戦争の起こりうる可能性は極めて高いだろう。が、しかし、それが必然であるというのは誰にも言えないよ。それは神のみぞ知るさ。たとえ、人類滅亡が99%確実であっても、残り1%の可能性にかけるのが、我々の義務だろう。ゲオルギーという人もこう言っている。「どんな時でも人間のなさねばならない事は、たとえ世界の終末が明白であっても、自分は今日リンゴの樹を植えることだ。」とね。君は、「歴史には流れがある」などといって、悟りすましたような顔をしているが、それは現実からの逃避であり、自分だけがよければよいという自己中心主義の言い訳に過ぎん。

第一、歴史は人間が作ってきたもので、神様がこうあるべきだ、としたものじゃない。だから、現在の人間の手で未来の歴史はなんとでも作り変えられうる。明治維新を見ろ。何千、何万もの若者たちが、自らの命を投げうって、自分たちの正しいと思う事に没入したからこそ、あれだけの事が成し遂げられたのだ。最初、彼らは幕府が瓦解しようなぞとは、夢想だに考えていなかったに違いない。しかし、彼らは立ち上がった。未来を信じて、そして、多くの屍を越えてあの偉業が達成されたのさ。宿命だ、天命だなどどうそぶいて、昼寝ばかりしては、あんな事はできなかったろう。え、そうは思わんか。

B：明治維新とは、また極端な例をだしたな。しかし、あれにしても結局は、天が人を動かしたに過ぎない。時勢、天の利があったればこそ、成し得た事だ。明治維新がああいうふうになって、あんなったというのも1つの歴史の流れであり、必然性があったのさ。

A：ああ、そうか。それじゃ、我々はどうせいちちゆうんじゃ。何でもかんでも、天命、運命だといってジューッとその天命だか、運命だかに甘ん

じておればいいのかい。

B: そうだ。全ては天が動かしてくれる。人は、天に則って生きてゆけばよい。君の好きな高杉晋作も言っているじゃないか。「生とは、天の我を勞するなり。死とは、天の乃ち我を安んじるなり。」とね。荘子にもこうある。「得るは時なり。失うは順なり。時に安んじて順におれば、哀樂も入ること能わず。」とね。何を憂えることがあろう。

A: ほー。何だか禅坊主みたいな事を言いやるな。その若さで、そこまでの境地にゆけば、たいしたもんだが、なあに口ではそういっているが、本心は煩悩のかたまりだろう。

B: やっぱり、わかるかなあ。だけど、その境地に近づこうとはしてるんだけどなあ。

A: 君も今の世の中には憂うべき事が多々あると思っはいるんだろう。

B: ああ、実は思っはいる。しかし、さっきも言ったように唯天運に任せて、自分の出来る事はやっていこうとは思っている。しかし、どうあがいても運命の糸から逃れられないのもまた事実だ。まあ、あらゆる意味で「足る事を知る。」というのは大事な事だと思っよ。

A: 君は、どうもおじんくさいなあ。兎に角、我々一人一人若者は、今は人類云々というような大問題をどうこうできはしないだろう。けれども、

常に、明日の日本を、世界を少しでもよくしてゆこうとする志は、常に持っていなければならぬ。慷慨の情のない奴は、若者とはいえない。燕雀いづくんぞ鴻鵠の志を知らんや、だ。

B: あー、そうか。俺はただ毎日毎日、楽しく暮らしてゆければそれでいいさ。どうせ、人の一生なんて夢みたいなものだ。同じ夢なら、楽しいほうがいいにきまつてる。燕や雀で結構毛だらけ、猫灰だらけさ。君は、白楽天のこういう詩を知っているかい。

蝸牛角上 何事をか争う

石火光中に この身を寄す

富したがに随い 貧しきに随いて 且らく歓楽せよ
口を開きて笑わざるは 是れ痴人

A: 僕はこの世に生まれてきた以上、何か人のため、世のために役立つ事をして生きてゆきたいと思っ。君はこの短い人生を、楽しく、面白ろおかしく生きればそれでよいという。まあ、それはそれでいいだろう。だけど……。

と、ここまで、ぼんやりと二人の会話を聞いていたのだが、いつの間にか寝入ってしまった。しばらくして目をさまして窓から外をみたら、茜色の夕焼け雲がとっても美しかった。はて、二人の意見のどちらが正しいのだろうか？

学 部 の 記 録

人 事 異 動

<採 用>

(教官の部)

9. 1 小島 基 (ドイツ語 講師)

10. 1 長谷川正之 (基礎科学研究 助教授)

北里 和則 (ドイツ語 講師)

(事務の部)

6.19 石原 瑞恵 (外国語)

<昇 任>

7. 1 水島 裕雅 (比較文化研究 助教授)

総合科学部講師より

大森 元吉 (社会文化研究 教授)

総合科学部助教授より

吉仲 正和 (基礎科学研究 助教授)

総合科学部講師より

三浦 省五 (英語 助教授)

総合科学部講師より

橋本 功 (英語 助教授)

総合科学部講師より

荒井 貞光 (保健体育 助教授)

総合科学部講師より

8. 1 志邨 晃佑 (英米研究 教授)

総合科学部助教授より

今中比呂志 (社会文化研究 教授)

総合科学部助教授より

保田茂次郎 (自然環境研究 教授)

総合科学部助教授より

田村 一郎 (英語 教授)

総合科学部助教授より

- 10.1 清水 昭俊 (社会文化研究 助教授)
千葉大学工学部助手より
天野政千代 (英語 講師)
東北大学文学部助手より

<配置換>

(教官の部)

- 10.1 宗岡洋二郎 (人間行動研究 助教授)
歯学部助教授より

(事務の部)

- 8.16 中井 薫二 (用度係長)
教育学部会計係長より

<訃音>

- 7.17 金政 忠道 (用度係長)

<辞職>

- 9.30 大森 元吉 (社会文化研究 教授)

<昇任>

- 9.1 佐藤 道郎 (ドイツ語 助教授)
岩手大学人文社会科学部教授へ

<配置換>

- 9.1 大瀧 敏夫 (ドイツ語 助教授)
金沢大学法文学部助教授へ

- 10.1 丸山 孝一 (アジア研究 助教授)
九州大学教育学部助教授へ

海外渡航者

(出張および研修)

小倉寿美子 (保健体育 助手)

渡航先 オーストリア, ドイツ連邦, フランス
目的 国際スポーツ教育研究集会出席
期間 53.7.12~53.8.3

佐藤 信行 (英米研究 教授)

渡航先 ベルギー
目的 中央アンデス農牧社会の民族学的研究
期間 53.7.21~54.2.17

津端 修一 (自然環境研究 教授)

渡航先 中華人民共和国
目的 中国の都市と農村の地域経営に関する調査・研究
期間 53.7.29~53.8.12

芝田 進午 (社会文化研究 教授)

渡航先 スウェーデン, ドイツ民主共和国, ドイツ連邦共和国, オーストリア
目的 第9回世界社会学会議, 第16回世界哲学学会議及び国際平和研究所シンポジウム出席並びに研究情報交換
期間 53.8.12~53.9.5

岩倉 国浩 (英語 助教授)

渡航先 アメリカ合衆国
目的 日本語・日本語学・言語学の授業担当及び言語学の研究
期間 53.8.15~54.8.31

水上 孝一 (情報行動基礎 教授)

渡航先 ソヴィエト連邦, ファンランド, スウェーデン, スイス, オーストリア, ドイツ連邦共和国

イツ連邦共和国

目的 オペレーションリサーチに関するシンポジウム出席及び研究情報交換
期間 53.8.25~53.9.15

志邨 晃佑 (英米研究 助教授)

渡航先 大韓民国
目的 第13回国際アメリカ研究セミナー出席
期間 53.9.20~53.9.26

前田 利昭 (アジア研究 助教授)

渡航先 中華人民共和国
目的 中国の社会及び文化施設, 教育機関等の視察並びに学術交流の研究
期間 53.9.25~53.10.9

高橋 史樹 (自然環境研究 教授)

渡航先 タイ, ナイジェリア, スイス
目的 タイ国における焼畑農地生態に関する研究
第2回国際貯蔵穀物害虫学会議出席及びチコーリッヒ工科大学森林害虫研究室視察
期間 53.8.12~53.8.22
53.9.8~53.9.21

塚田 松雄 (自然環境研究 教授)

渡航先 大韓民国
目的 韓国における環境変遷史の調査
期間 53.7.11~53.8.1
53.9.15~53.9.25
53.10.1~53.10.10

安田 喜憲 (自然環境研究 助手)

渡航先 大韓民国

目的 韓国における環境変遷史の調査

期間 53.7.11~53.8.7

53.9.15~53.12.10

武田 隆義 (基礎科学研究 助手)

渡航先 連合王国

目的 固体電解質及び固体陰極での高速 Li⁺イオン伝導に関する研究

期間 53.10.1~54.9.30

渡辺 則文 (日本研究 教授)

渡航先 連合王国, フランス, ドイツ連邦共和国, オーストリア, オランダ

目的 第7回国際経済史学会出席及び情報交換, 資料収集

期間 53.8.8~53.8.29

堤 正信 (日本研究 助手)

渡航先 連合王国, フランス, ドイツ連邦共和

国, オーストリア, オランダ

目的 第7回国際経済史学会出席及び情報交換, 資料収集

期間 53.8.8~53.8.29

伊藤 護也 (社会文化研究 助教授)

渡航先 ドイツ民主共和国

目的 法律学の理論的・方法論的諸問題研究

期間 53.9.26~54.10.31

樹下 行三 (情報行動基礎 教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 第3回日米コンピューター会議出席及びCADに関する調査・討論

期間 53.10.8~53.10.22

岡野 正義 (自然環境研究 助教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 γ-ラクトン類の薬化学的研究

期間 53.10.9~54.10.11

編 集 後 記

ついに飛翔も発刊10号目をめでたく迎えました。次は11号です、次は12……いつまで続くのやら(浜)

後継者がいないので、少しさみしい、秋の飛翔編集委員会です。応援たのむ。(文)

見果てぬ夢を追いつつも、ふと厳しい現実、己れの非力さを思い知らされる今日このごろです。(田)

「責任」という二文字の重さを感じます。体力つけて、しっかり支えねばなりません。(狂子)

なにもしませんでした。ゴメンナサイ(M)

君の飛翔は10,000ボルト!(Rimi)

飛んでイスタンブール、飛んだら飛翔。(耕)

今度ばかりは、なあんにもしなかったのに飛翔創刊10号記念特大号はなぜかできあがったのです。これはやはり編集委員が賢いんだ、というのでは絶対になくて、忙しい折厭わずに原稿を寄せてくださった職員の方々や四年生の皆さん、鈴木先生それに大西氏とその他の人々の好意の賜物なのです。特に係の 俵さんには御世話になりました。誌上を借りてみなさんに感謝いたします。

(裕)

原 稿 募 集

飛翔が自由投稿で埋まるほどの投稿を期待しています。内容の種類は問いません。特に学生諸君の研究発表の場として大いに活用してください。また表紙を飾るイラストや写真も募集しています。どちらも広報委員か厚生補導係へ随時持ち寄ってください。